

2024年度 環境活動レポート
2024.07.01～2025.06.30

株式会社ワールド・クリーン

2025/10/27

目次

<u>1. 環境経営方針</u>	<u>3</u>
<u>2. 事業活動の規模</u>	<u>4</u>
<u>3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表</u>	<u>6</u>
<u>3-1. 組織一覧表</u>	<u>6</u>
<u>3-2. 役割・責任・権限表</u>	<u>7</u>
<u>4. 環境目標</u>	<u>8</u>
<u>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</u>	<u>8</u>
<u>CO2排出量の削減</u>	<u>8</u>
<u>排水量の削減</u>	<u>9</u>
<u>社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備</u>	<u>9</u>
<u>5. 環境活動計画</u>	<u>9</u>
<u>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</u>	<u>9</u>
<u>CO2排出量の削減</u>	<u>9</u>
<u>排水量の削減</u>	<u>10</u>
<u>社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備</u>	<u>10</u>
<u>6. 実績</u>	<u>11</u>
<u>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</u>	<u>11</u>
<u>CO2排出量の削減</u>	<u>12</u>
<u>排水量の削減</u>	<u>14</u>
<u>廃棄物の受け入れ量（t）</u>	<u>15</u>
<u>社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備</u>	<u>16</u>
<u>7. 環境活動計画の取組みと評価</u>	<u>17</u>
<u>8. 環境関連法規制等の順守状況</u>	<u>18</u>
<u>9. 代表者による全体評価と見直しの結果</u>	<u>19</u>
<u>資料：</u>	<u>20</u>

1. 環境経営方針

株式会社ワールド・クリーン 環境経営方針

<環境経営理念>

当社は環境悪化ストッパーとして、現在の我々と未来の子孫が、安全快適にこの地球上で生活することが出来る環境を保持するために、『環境保全第一』を環境経営理念に掲げ、廃棄物を資源と捉え、廃棄物の有効活用と、法に則った環境保全を推進することが、当社の役割であることを全社員が認識し、全社一丸となって環境保全活動に取り組めます。

<環境保全行動指針>

I. 具体的行動

①廃棄物の削減及びリサイクルの推進

・産業廃棄物

当社に処理を委託された全ての廃棄物のリサイクル率を常に把握し、飼料化率の向上及び廃プラスチック類のリサイクルを進める。

・一般廃棄物

飛島リサイクルセンターから排出される可燃ごみ、不燃ごみ、紙くずの発生量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

②CO2排出量の削減

・電力

飛島リサイクルセンターの電力量を常に把握し、増加の際は原因を追及し、改善を計画する。

・自動車燃料

営業車、トラック、フォークリフト

燃料使用量を毎月モニターし、燃費悪化が著しい場合は原因を追及し改善を計画する。

将来は電気やハイブリッド車輛を優先的に利用する事を検討する。

・LPガス

飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

③排水量の削減

・飛島リサイクルセンター作業洗浄水の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

・飛島リサイクルセンター事務所の使用量を毎月把握し、増加の際は原因を追及し改善を計画する。

④社会貢献

・未利用エネルギー資源のエネルギー化の研究開発と実施

・地域での環境保全活動への参加

II. 法令の遵守

環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

III. 環境活動の公表

環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

2021年 6月30日
株式会社ワールド・クリーン
代表取締役 長尾秀義

2. 事業活動の規模

■登録事業所の概要

事業所名及び代表者名

株式会社ワールド・クリーン

代表取締役 長尾秀義

法人設立年月日：平成4年4月17日

■所在地

本社、飛島リサイクルセンター：愛知県海部郡飛島村金岡54番

■環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

担当者：藤本和也(事業部長)

連絡先：0567-57-0533

■事業内容（認証・登録の範囲）

・産業廃棄物中間処理、食品廃棄物の再生・飼料製造

(対象事業場：本社、飛島リサイクルセンター)

・事業の規模

資本金 10,000 (千円)

年間売上 696,567 (千円) (2023年度)

従業員数 14名

延床面積 879.3 m²

・処理能力(中間処理業)

・事業の区分

・中間処分(圧縮・選別、混練、選別、破碎、破碎・選別)

廃棄物処分業許可番号：第02320075513号

許可年月日：令和元年7月12日

許可有効年月日：令和6年5月5日

破碎・選別施設 8.72 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 29.2 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、ガラスくず・コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)及び陶磁器くず(自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎・選別施設 8.4 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く。)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎施設 40.16 m³/日

動植物性残さ

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎施設 17.12 m³/日

廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

圧縮・選別施設 22.48 m³/日

廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、金属くず

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

選別施設 88 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、動植物性残さ、金属くず(自動車等破砕物を除く)

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

混練施設 156 m³/日

汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃アルカリ(水銀含有ばいじん等を除く。)、動植物性残さ

(上記品目は水銀使用製品産業廃棄物を除く。)

破碎洗浄施設 2.96 t/日 × 3台

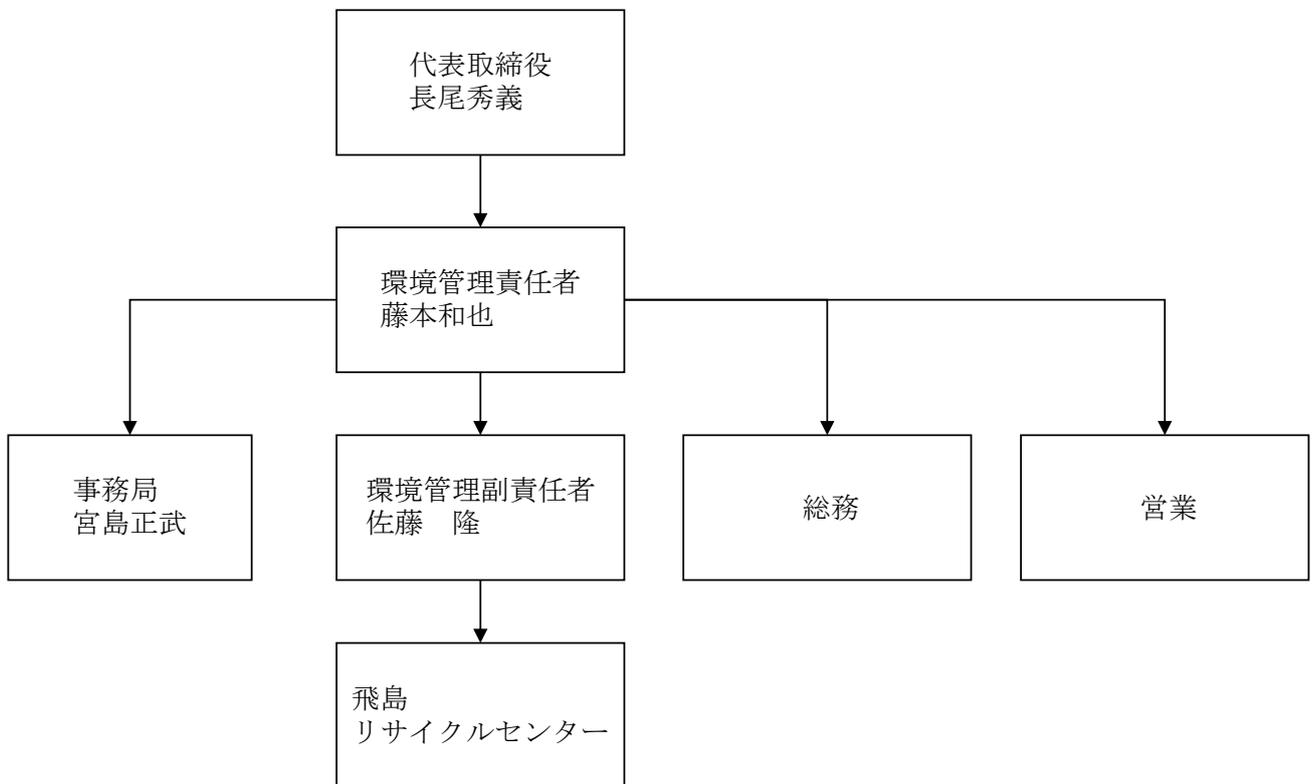
汚泥(石綿含有産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃酸(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、動植物性残さ

・年間処理量(中間処理業) 6751.79 t (2024.07.01～2025.06.30実績)

■事業年度 7月 ～ 6月

3. 株式会社ワールド・クリーン 環境経営システム 組織一覧表／役割・責任・権限表
(全組織、全活動を対象として環境活動に取り組んでいる)

3-1. 組織一覧表



3-2. 役割・責任・権限表

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を作成・承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成。
環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境活動の進捗状況の確認・報告 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成補助。 ・整理整頓状況の管理
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・受入・出荷に関する集計表を作成します。 ・環境活動の実績集計。電気・水道・ガス・化石燃料の集計のほか、環境活動の実施レポートの取りまとめを行います。 ・環境への取り組み自己チェックリストを作成します。（年1回） ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。行政機関や取引先との間での環境関連のコミュニケーションの窓口を担います。コミュニケーションが実際に行われた場合には、外部コミュニケーション記録を記載します。 ・環境活動レポートの公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・毎月の社内報の発行を行います。
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4. 環境目標

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	基準年 (2023年度) (実績)	今年度目標 (2024年度)	次年度目標 (2025年度)	次々年度目標 (2026年度)
受け入れ廃棄物中の 飼料化割合	16.37% (1347.22t /8228.34 t)	23.40%	2024年度比 1%増	2025年度比 1%増
排出廃プラスチック類におけ るマテリアルリサイクル割合	4.58% (30.04t /656.31 t)	7.00%	10%	12%
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	176.20	2023年度比 -3% 170.91	2024年度比 3%減	2025年度比 3%減

CO₂排出量の削減

項目 細目	基準年 (2023年度) (実績)	今年度目標 (2024年度)	次年度目標 (2025年度)	次々年度目標 (2026年度)
受入れ廃棄物 1 t あたり電力関係 CO ₂ 排出量	7.51kg-CO ₂ /t (61830.46kg- CO ₂ /8228.34 t)	7.14kg-CO ₂ /t	2024年度比 5%減	2025年度比 20%減
受入れ廃棄物 1 t あたり化石燃料 CO ₂ 排出量	5.46kg-CO ₂ /t (44935.8kg- CO ₂ /8228.34 t)	5.19kg-CO ₂ /t	2024年度比 5%減	2025年度比 5%減

排水量の削減

項目 細目	基準年 (2023年度) (実績)	今年度目標 (2024年度)	次年度目標 (2025年度)	次々年度目標 (2026年度)
受入れ廃棄物 1 t あたり水使用量	0.151m ³ /t 【総使用量】 1239m ³	0.143m ³ /t	2024年度比 5%減	2025年度比 5%減

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	基準年 (実績)	今年度目標 (2024年度)
地域での環境保全活動への参加	—	環境奉仕活動への参加 (継続)
グリーン調達推進		グリーン調達購入 (継続)
国内外環境活動への協力参加		各種環境団体への積極的参加 (継続)
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	—	従業員教育強化 (講習会・資格取得) (継続)
コミュニケーション体制整備		社内報、週報、月報の発行 (継続)
環境整備		防虫・防疫の実施、清掃による悪臭の予防
社内美化		5Sの推進 (継続)

5. 環境活動計画

廃棄物の削減及びリサイクルの推進

項目 細目	管理項目	具体的活動
全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	マテリアルリサイクル量	<ul style="list-style-type: none"> ・キャップ等のマテリアルリサイクルの徹底 ・廃プラスチック類洗浄ライン稼働
全排出量中の飼料化割合	飼料化量	<ul style="list-style-type: none"> ・運搬委託企業への増車依頼 ・堆肥化から飼料化への徹底 ・飼料化品目の増加
一般廃棄物量 (事務所ゴミ) 総量	可燃ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパータオル使用中止 (継続) ・シュレッダー廃紙のリサイクル化 ・帳票見直しによる印刷物の削減 ・封筒、メモ紙など古紙リサイクルの可燃ごみへの混入防止徹底 (継続) ・WEBによる勤務管理 (ペーパーレス) 継続

CO₂排出量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
受入れ廃棄物 1 tあたり電力関係 CO ₂ 排出量	電力使用量	<p>エアコン夏季28度、冬季20度設定（継続）</p> <p>照明LED化（継続）</p> <p>工場内照明日中OFF（継続）</p> <p>天井扇間欠稼働（継続）</p> <p>空調機のフィルターの定期的な清掃・交換</p> <p>夜間、休日パソコン、プリンターなどの主電源OFF</p> <p>CO₂フリー電力導入（継続）</p>
受入れ廃棄物 1 tあたり化石燃料 CO ₂ 排出量	LP	<ul style="list-style-type: none"> ・温水温度の適正化
	ガソリン	<p>ガソリン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・社用車低公害車への入れ替え ・エコドライブ推進（継続） ・社内報での定期的呼びかけ（継続）
	軽油	<p>軽油</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーフォークリフトの導入（継続） ・アイドリングストップ ・フォークリフトの燃料使用量把握（継続） ・社内報での定期的呼びかけ（継続）
	灯油	<p>灯油</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯油使用量の把握（継続） ・高圧洗浄機 温水スイッチの制御(温度管理)（継続）

排水量の削減

項目 細目	管理項目	具体的活動
利用水の削減	水使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・加水作業縮減（継続） ・水道使用量の見える化（継続） ・工場内洗浄回数の最適化 ・廃プラスチック類洗浄時の使用水量最適化

社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目 細目	管理項目	具体的活動
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・2回/年の地域一斉清掃活動への参加 ・藤前干潟清掃活動への参加
グリーン調達への推進	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙グリーン調達率100%達成（継続） ・グリーン調達品目の拡大（継続）
国内外環境活動への協力参加	公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> ・資源再生ネット、CRNへの参加 ・愛知県産業資源循環協会活動強化 ・愛知県清掃事業連合会活動強化
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講習等への参加（実務者研修、職長教育、安全衛生教育等） ・従業員環境教育の実施 ・管理者養成
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・週報・月報の発行（継続） ・在庫一覧及び週ごとの棚卸（継続） ・WEB会議導入（継続）
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤散布（継続） ・防疫措置(豚熱予防・殺菌)（継続） ・従業員感染症及び熱中症対策の実施
社内美化	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓清掃の実施（継続） ・コンクリート補修等で汚れにくい状態へ
未利用エネルギーの研究開発	廃プラスチック類の燃料化	・廃プラスチック類の破砕洗浄による燃料化調査（継続）
	メタンガス発酵原料の供給	・メタンガス発電向けの原料について需要調査

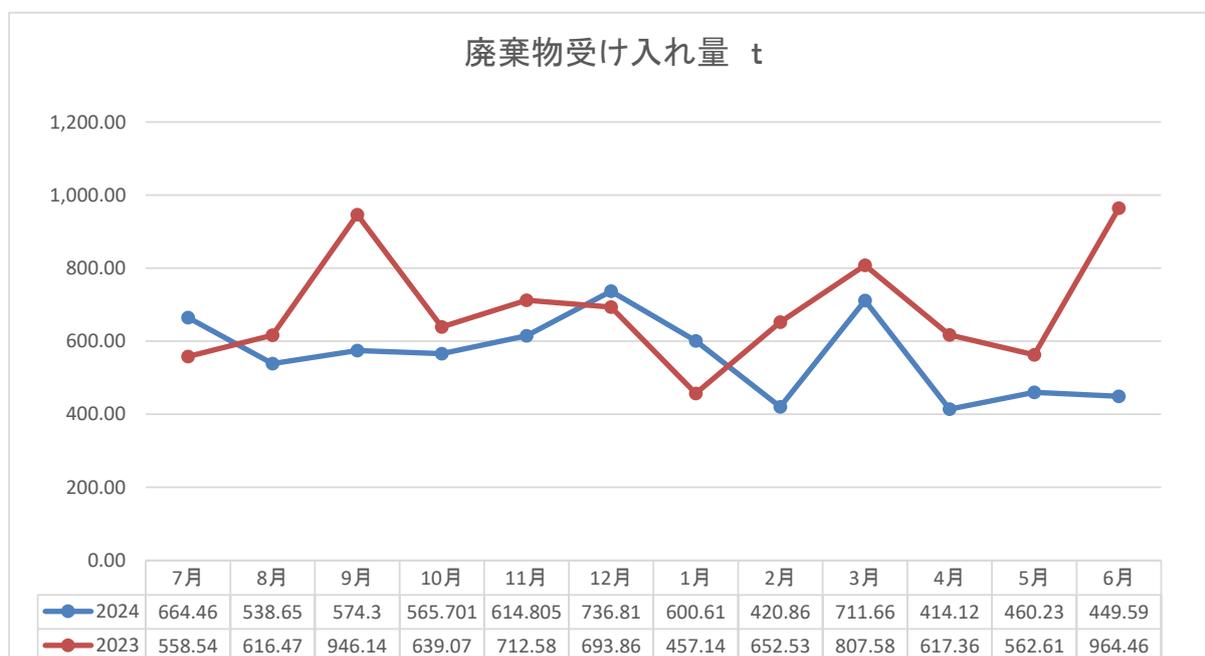
6. 実績

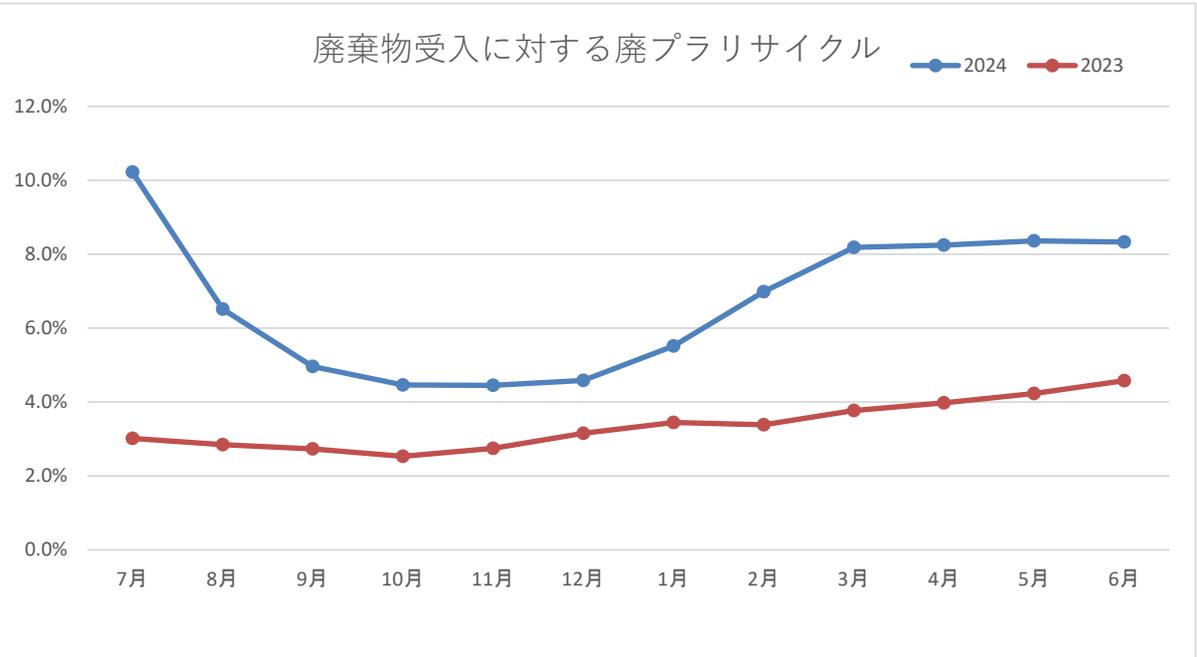
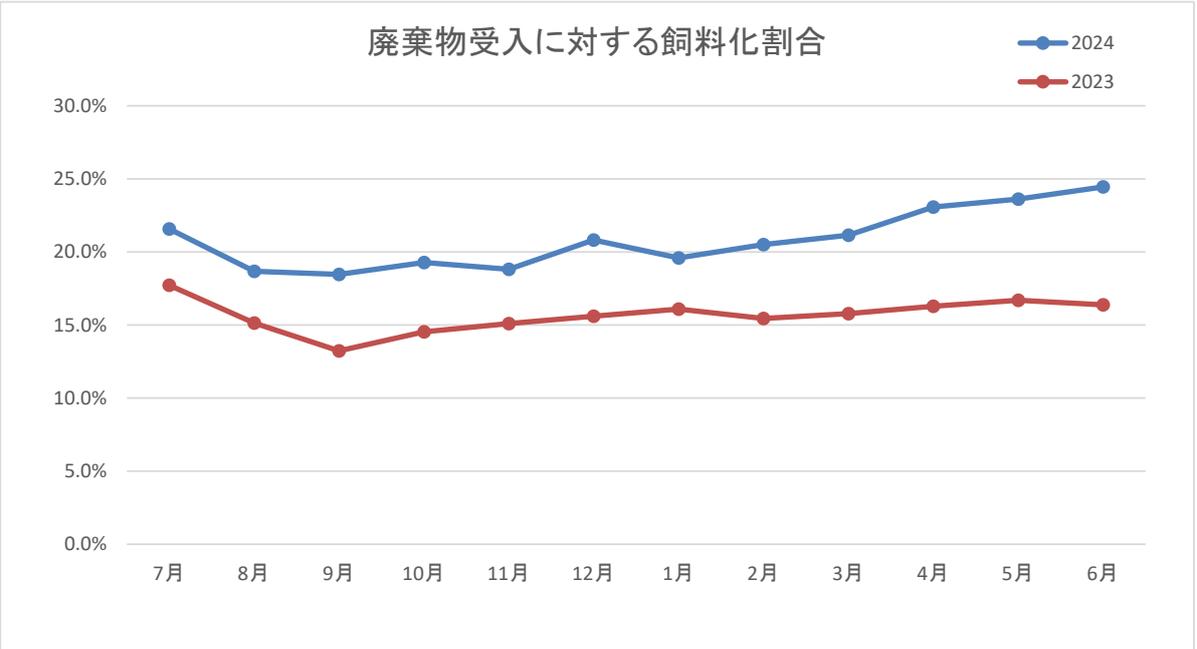
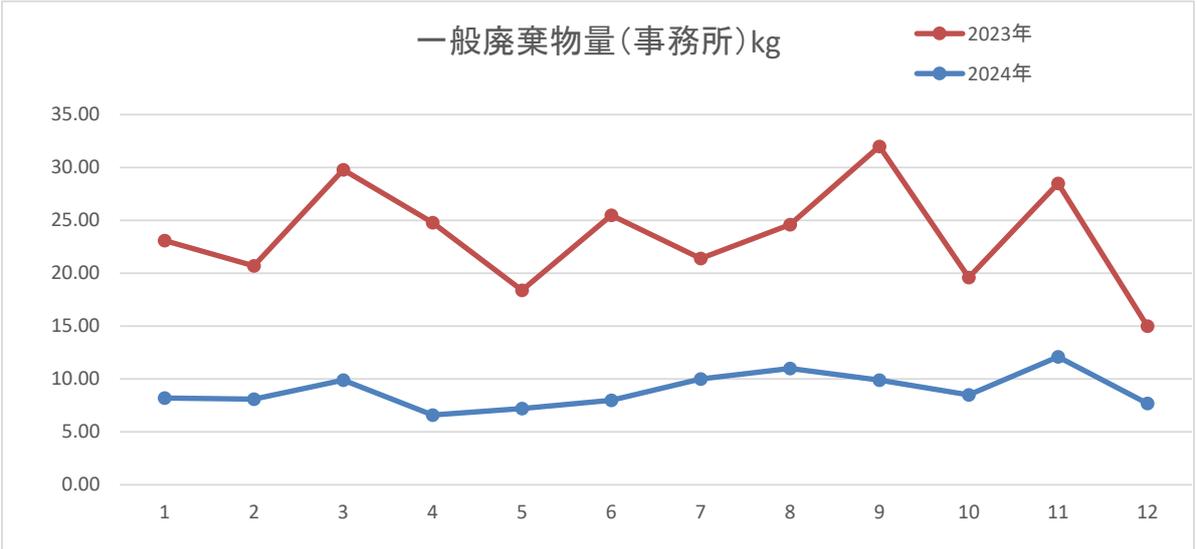
廃棄物の削減及びリサイクルの推進

(注) 化学物質の使用無し。

項目		基準年 (2023年度)	今年度目標 (2024年度)	今年度実績 (2024年度)
廃棄物の総排出量 (=受入れ廃棄物)		8228.34	—	6751.79 t
産業廃棄物の削減	全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量 (マテリアル・サーマル) 割合	0.37% (30.04t /8228.34 t)	7.00%	8.39% (566.17t / 6751.79 t)
	全排出量中の飼料化割合	16.37% (1347.22t /8228.34 t)	23.40%	24.45% (1650.7 t / 6751.79 t)
一般廃棄物の削減 (事務所ゴミ)	一般廃棄物量	176.2kg	(2023年度) -3% 170.91kg	107.2kg

※事務所ゴミはkg単位であるため、t単位である受入廃棄物との比較は行っていない。

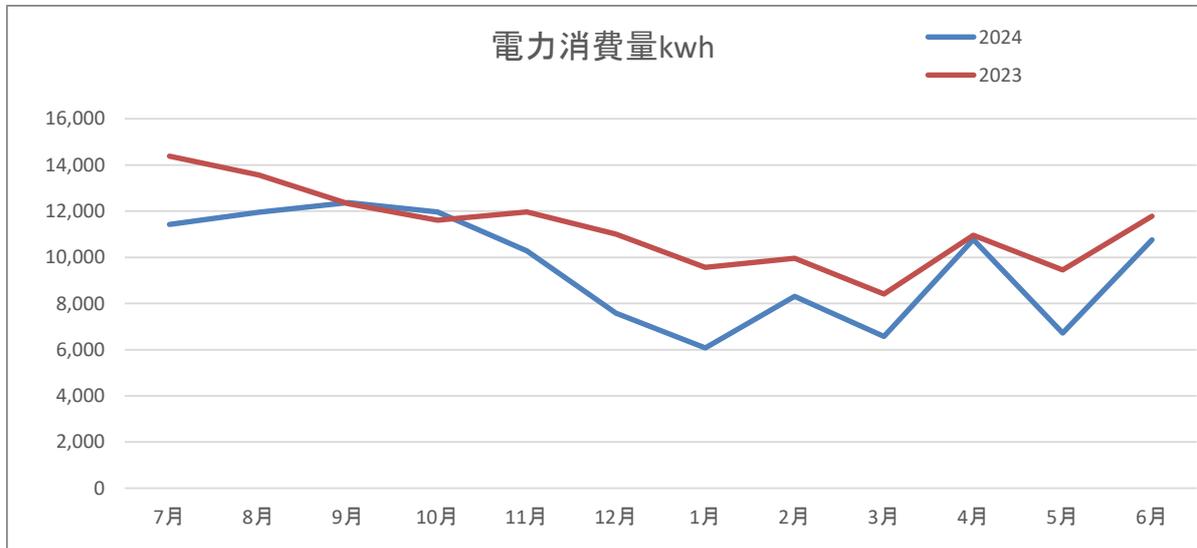
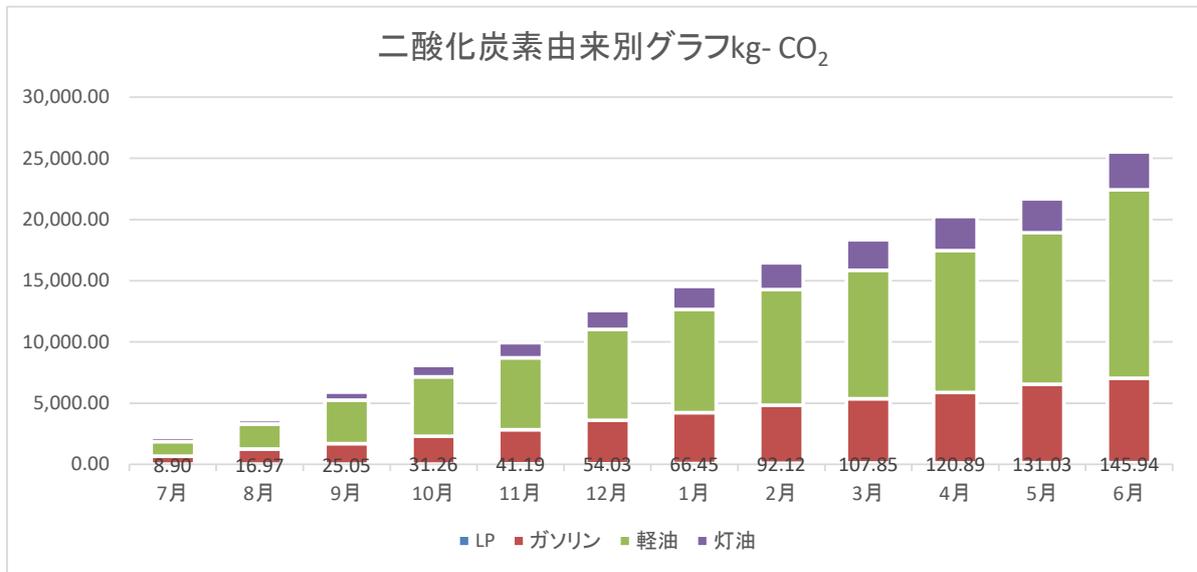


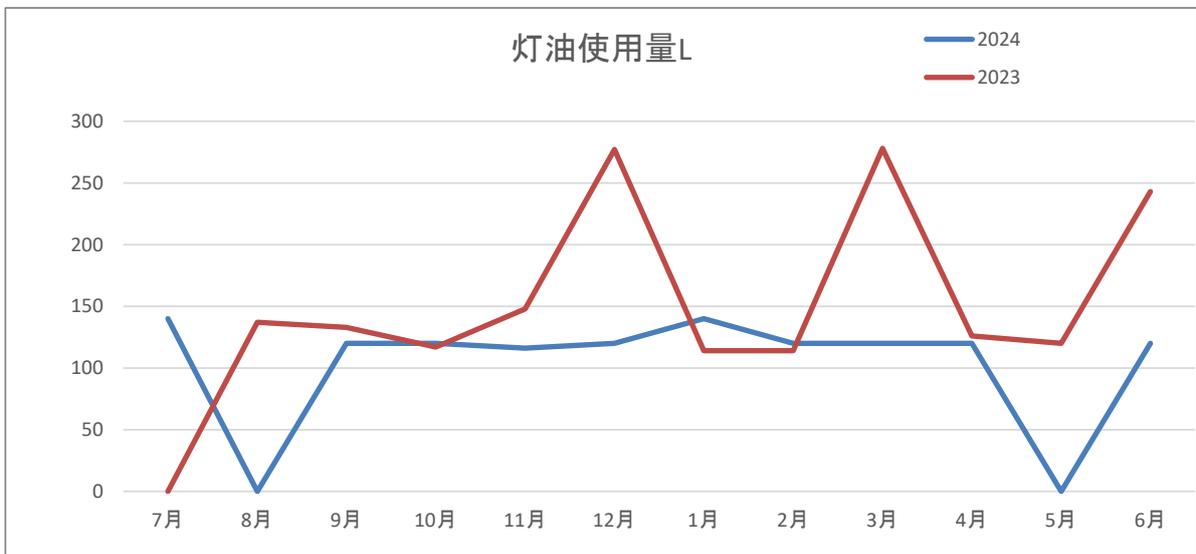
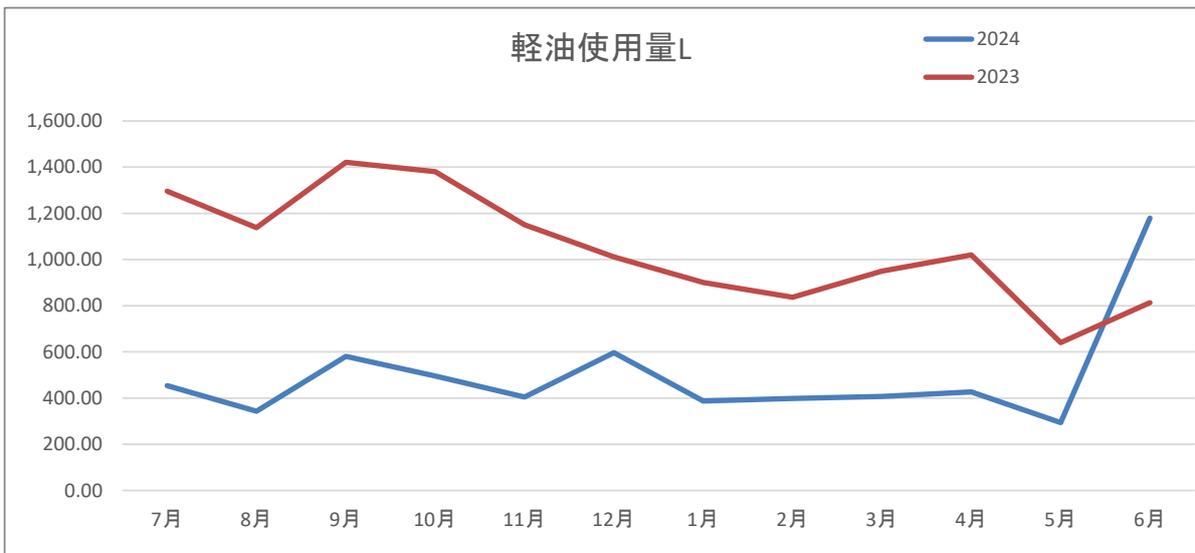
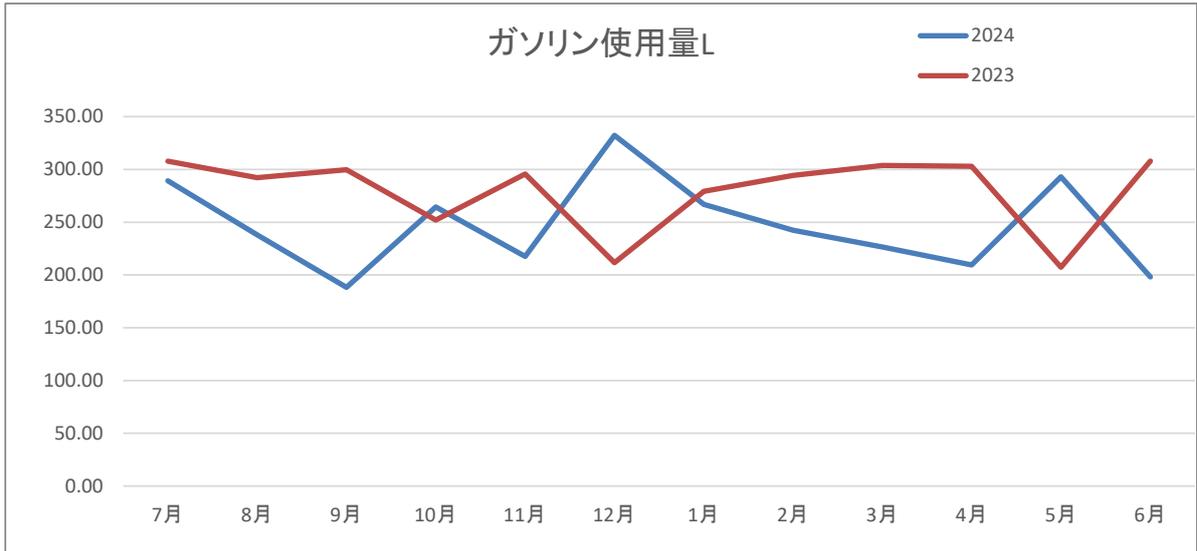


C02排出量の削減

(注)24年1月からグリーン電力導入によりCO₂換算係数0を使用。

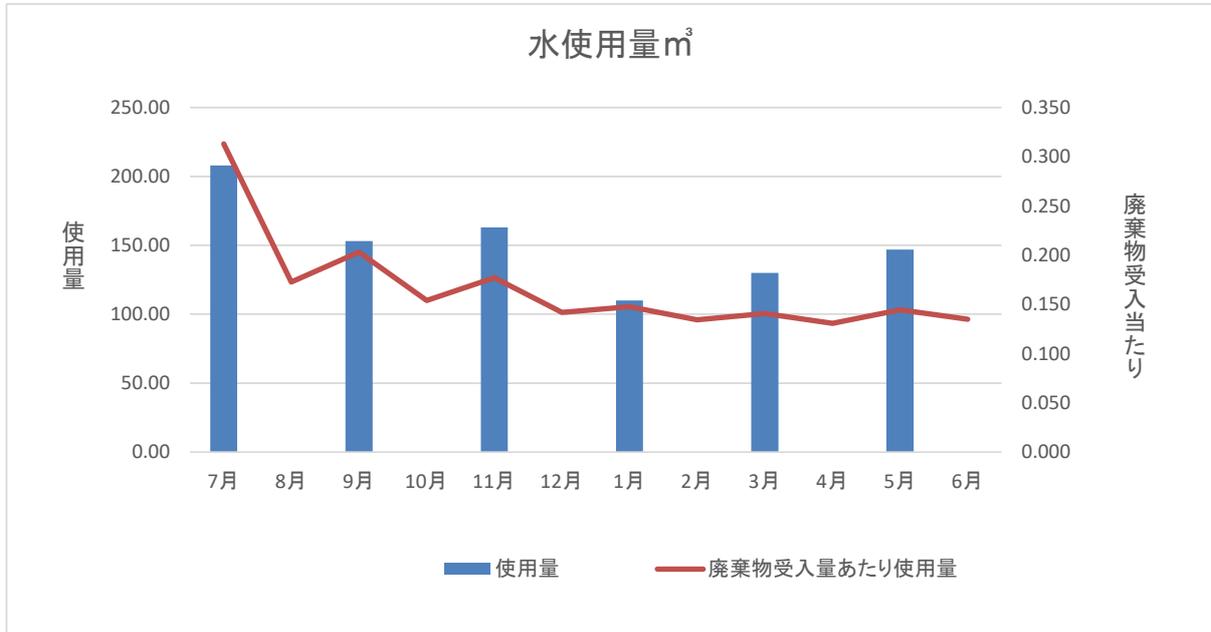
項目		基準年 (2023年度)	今年度目標 (2024年度)	今年度実績 (2024年度)
排出量	総排出量 (kg-CO ₂)	106,766.26		25,508.36
	電力使用に伴う排出量 (kg-CO ₂)	61,830.46		0.00
	化石燃料使用による 排出量 (kg-CO ₂)	44,935.80		25,508.36
電力の二酸化炭素排出量削減	受入れ廃棄物1tあたり 電力関係CO ₂ 排出量 単位：kg-CO ₂ /t	7.51kg-CO ₂ /t	(2023年度比) -5% 7.14kg-CO ₂ /t	0kg-CO ₂ /t (0kg-CO ₂ / 8228.34t)
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	受入れ廃棄物1tあたり 化石燃料 単位：kg-CO ₂ /t	5.46kg-CO ₂ /t	(2023年度比) -5% 5.19kg-CO ₂ /t	3.78kg-CO ₂ /t (25508.3584kg-CO ₂ / 8228.34t)





排水量の削減

項目		基準年 (2023年度)	今年度目標 (2024年度)	今年度実績 (2024年度)
水使用量の削減	総使用量	1,239.00	—	911.00
	受入れ廃棄物1tあたり水使用量 単位：m ³ /t	0.151m ³ /t	(2023年度比) -5% 0.143m ³ /t	0.135m ³ /t



社会貢献、環境保全の仕組み・体制整備

項目	管理項目	活動実績
地域での環境保全活動への参加	地域清掃活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域一斉清掃活動 参加 ・藤前干潟不法投棄清掃 参加
グリーン調達	グリーン調達	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙・文房具などをグリーン調達品目から購入 (継続)
国内外環境活動への協力参加	環境団体・公共団体等開催のイベントへの協力	<ul style="list-style-type: none"> ・中部異業種間リサイクルネットワーク (CRN)、しげんさいせいネットワーク (継続) ・愛知県産業資源循環協会理事 ・愛知県清掃事業連合会 参加 (継続)
体制整備 (コンプライアンス・従業員育成)	体制整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者研修 (1名) (継続) ・従業員環境教育の実施 (継続)
コミュニケーション体制整備	見える化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・週報・月報の発行 (継続) ・在庫一覧及び週ごとの棚卸 ・基幹システム導入検討
環境整備	防虫・防疫強化 悪臭予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤散布 (継続) ・防疫措置 (豚熱予防・殺菌) (継続) ・新型コロナウイルス対策実施 (継続)
社内美化	5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰)	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清掃の励行を実施 (継続)
未利用エネルギーの研究開発	高油脂分の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・BDF、SAF原料としての植物油脂の販売拡大

7. 環境活動計画の取組みと評価

2024年7月～2025年6月の1年間の活動と取組み及びその評価

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
<p>廃棄物の削減及びリサイクルの推進</p>	<p>目標の達成状況：○</p>
<p>■産業廃棄物： 目標：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 7% 結果：全排出量中の廃プラスチック類リサイクル量（マテリアル・サーマル）割合 8.33% 6751.79t 目標の達成状況：○</p>	<p>今年度より、マテリアルリサイクルの割合を目標とした。 新規の販売先を開拓したほか、軟質の袋などを選別しマテリアルリサイクルとしたほか、一部破碎洗浄後の廃プラスチック類の売却を行った結果、昨年度よりもマテリアルリサイクルの割合が上昇し、目標を達成することが出来た。</p>
<p>■産業廃棄物： 目標：全排出量中の飼料化割合23.4% 結果：全排出量中の飼料化割合24.45% (1650.7t/6751.79t) 目標の達成状況：○</p>	<p>受託する廃棄物数量が減少する中で、外部委託の費用を削減するために手間と時間をかけて飼料化に注力した。結果大きく飼料化率を向上させることができた。 また、養豚向け以外として魚のえさを製造している事業者に対し原料販売を拡大させることが出来たほか、メタンガス発電のカロリー源としての販売も行うことが出来た。</p>
<p>■一般廃棄物（事務所ごみ） 目標：170.91kg 結果：107.2kg 目標の達成状況：○</p>	<p>ペーパータオルの使用中止、紙ごみのリサイクルの徹底のほか、可燃ごみに一部廃プラスチック類が混入していたことについて分別を徹底したことで、可燃ごみの量は減少した。</p>
<p>CO₂排出量の削減 【総排出量】25508.36kg-CO₂</p>	<p>目標の達成状況：○</p>
<p>■電力関係 受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 目標：2023年度（7.51kg-CO₂/t）に対して-5%（7.14kg-CO₂/t） 結果：2023年度に対して100.0%減（0kg-CO₂/t） 目標の達成状況：○</p>	<p>CO₂フリーの電気を100%使用しているため、CO₂排出については目標を達成できた。今後は電気の使用量について着目し、管理していく必要がある。 廃プラスチック類の破碎洗浄機を稼働させ始めたため、全体の電力使用量は1割減に留まった。また、天井扇の使用について、粉塵予防など作業環境維持のため使用頻度が上がるため、毎月の使用量に十分注意を払っていく必要がある。</p>
<p>■化石燃料 受入れ廃棄物1tあたり電力関係CO₂排出量 目標：2023年度（5.46kg-CO₂/t）に対して5%減（5.19kg-CO₂/t） 結果：2023年度（5.46kg-CO₂/t）に対して31%減（3.78kg-CO₂/t） 目標の達成状況：○</p>	<p>ガソリンについて 営業車をハイブリッド車など低燃費車に切り替えたことで、ガソリンの使用量は減少させることが出来た。単月の評価も目標達成月が2か月ほど増加した。受入廃棄物の減少がガソリン使用量の減少を大きく上回る形で進んだため、目標達成とはならなかった。 軽油について 2025年6月より、少量危険物タンク（自社スタンド）を導入したため、6月のみ給油量が一時的に増加した。年間を通じては、運搬用トラックへの給油が運搬業務がグループ会社に移管され計上されなくなったため、使用量は大きく減少した。 また、受入廃棄物の減少により作業量が減ったことも影響したと考えられる。 灯油について 飼料化推進のため温水洗浄機の使用頻度を減らすのが困難であるが、設備の洗浄回数を減少させることで使用水量を減り、結果温水の使用量が減少、灯油の使用量を抑えることが出来た。 LPガスについて 大型選別機での温水使用を抑制した結果、ガスの使用量を大幅に削減することが出来た。</p>

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組結果の評価
排水量の削減	目標の達成状況：○
受入れ廃棄物1tあたり水資源投入量の削減 ■水使用量 目標：2023年度（0.151m ³ /t）に対して-5%（0.143m ³ /t） 結果：2023年度に対し10.39%減（0.135m ³ /t） 目標の達成状況：○ 【総使用量911m ³ 】	目標を達成しなかった月は1回だけで、他の月は目標を達成した。年間を通して目標を達成した。作業の見直しを進め、設備の洗浄回数を最小限にしたことが効果的であった。使用量は昨年度と比較し27%減と大幅な減少を達成した。
社会貢献	目標の達成状況：○
※現状把握及び基準の策定	地域の清掃、藤前干潟での清掃活動、不法投棄防止パトロールなどを実施した。
目標の達成状況：○	
環境保全の仕組み・体制整備	目標の達成状況：○
※体制整備	高脂質な廃棄物をメタンガス発電の原料として販売を開始した
目標の達成状況：○	SAFやBDF向けに植物油の販売を開始した

(注) 目標の達成状況 ○：目標値以上 △：目標値の80%以内 ×：目標値の80%以下未達

8. 環境関連法規制等の順守状況

適用される法規制	遵守状況
廃棄物処理法	遵守
浄化槽法	遵守
消防法	遵守
労働安全衛生法	遵守
下水道法	遵守
水質汚濁防止法	遵守
悪臭防止法	遵守
食品リサイクル法	遵守
フロン排出抑制法	遵守
飼料安全法	遵守
愛知県条例(県民の生活環境の保全等に関する条例)	遵守
愛知県条例(廃棄物の適正な処理の促進に関する条例)	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘及び訴訟は、過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境管理責任者からの報告に対する評価コメント

C02フリーの電力を使用しているからと言って、節電しなくてよいということではないので、使用量の削減を環境目標として計画を立てていく必要がある。

夏の高温期に本当に温水洗浄が必要なのかどうか、検証の上で使用基準を設けたり或いは使用禁止期間を設けるなど仕組みとして灯油の使用量を削減していく必要がある。

環境管理責任者のみでエコアクションの審査を担当していることについても、今後の体制強化のためにも、従業員教育という観点からも、複数人で対応することを検討していく。

廃プラスチック類のマテリアルリサイクルについては、廃プラスチック類の洗浄により今後のリサイクルの割合を向上させていく予定であるが、食品廃棄物に使われている包装が単一素材ではないこと・他業者（焼却業者）における単価の推移から、むやみに洗浄するのではなく、廃プラスチック類の汚れや素材などを見極めながら、洗浄およびマテリアルリサイクルを進めていく。

メタンガス発電の原料や再生油の原料として高脂質な食品やそれらから回収した植物油の販売を進めることが出来たが、今後より強化していく。

環境方針・環境目標・環境活動計画・環境経営システムについての変更の必要性については、変更する必要はない。

資料：

株式会社ワールド・クリーン 処理フロー図

